

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・総合実習(サ・ビ)	単位数	2	担当者	竹内・押鐘・植原・小澤
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------------

1、教科書・副教材

農業と環境	実教出版
森林経営	実教出版

2、科目の目標

森林技術にかかわり、各コースに関連した(サイエンスは森林管理や利用技術、ビジネスは地域文化と生産・流通技術)について専門的な実験実習を進めるとともに、農業クラブ上級検定合格へ向けた報告書を作成する。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	オリエンテーション コース別実習の概要説明	総合実習の狙いについて理解する 各コースの実習内容の把握	35	
	5月	㊦森林の調査方法 ㊧地域作物の調査	㊦ 木材の性質と郷土について学び、強度試験を行う ㊧ 長野県の伝統野菜等の調査を行い、テーマを設定し、生産者のお話から栽培計画をたてて栽培を行う。		
	6月	森林管理の実際	演習林にて管理作業の実際を学ぶ。関連器具操作の基本を学ぶ。		
	7月	農業鑑定学習	農業鑑定学習を通じ専門課程の基本的な知識を習得する。		
	8月				
	9月	㊦材積計算の実際 ㊧報告書作成	㊦材積の測定をおこない報告書にまとめ考察する ㊧栽培経過、研究経過をまとめレポート作成を行う。		
後期	10月	㊦演習林実習 ㊧作物の活用実習	㊦演習林にて管理作業の実際を学ぶ。 ㊧農産物加工の実際を学ぶ。	35	
	11月	㊦FFJ 検定上級レポート作成と理解。 ㊧面接練習	㊦農業クラブ検定へ向けた準備 ㊧農業クラブ検定へ向けた準備		
	12月	資格取得	危険物取扱者資格取得		
	1月	資格取得	危険物取扱者資格取得		
	2月	㊦伐木の安全教育 ㊧地域産業学習	伐木作業の安全知識を身につける。 ㊧地域産業について実践的に学ぶ		
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	農業・林業について、正しい知識や技術を身に着ける。	知識試験
思考・判断・表現	各学習や実習内容について深く理解し、適切な行動がとれる。レポートやプレゼンテーション作成にあたり、正確な記録のもと明瞭にまとめることができる。	レポート作成 面接 上級検定
主体的に学習に取り組む態度	授業テーマに関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる	実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

課題の設定を明確に持ち、生徒が積極的に試験・調査に取り組めるよう配慮する。また、報告書の作成にあたっては慣れないことなので、満足のいくものとなるよう十分心がける。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・農業と情報	単位数	2	担当者	横山
---	----	-------	----------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

農業と情報（実教出版）

2. 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう学び、農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を養う。
--

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	私たちの生活と農業の情報化	・農業にどのように活用されているか、情報化社会におけるモラルとセキュリティの重要性、身に付けた技術をどのように活用するか、などを理解する。	35	・FFJ 検定上級（意見文）Word 入力
	5月	情報とメディア			
	6月	情報社会とモラル			
	7月	情報社会の光と影	・コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。		・日本語ワープロ検定試験【7月実施】
	8月	社会を支えるコンピュータ			
	9月	情報セキュリティ	・アプリケーションの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。		
後期	10月	農業を支える情報	・情報の収集・蓄積と更新・処理等が、環境保全・農林業に及ぼす意義や役割について理解する。	35	・文書デザイン検定試験【10月実施】
	11月	農業情報の分析と活用			
	12月	農業学習と情報活用	・表計算ソフト等を用い、基礎的な農業情報の処理について理解する。		
	1月	農業情報の収集と分析			
	2月	環境に関する情報の分析と活用	・演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。		・情報処理技能検定試験表計算【2月実施】
	3月	スマート農業への展望	・プログラム設計やシステム制御について基礎的な知識・技術を理解する。 ・基礎的な演習から、プログラミングについての知識を身に付ける。また、プログラミングを用いて簡単な課題解決にも取り組む。		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・情報をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	・農業情報の活用について思考を深め、科学的な根拠などに基づいて判断し過程や結果を適切に表現している。	ワークシート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	レポート、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・コンピュータを使うことで身につくことが多いです。操作が分かると、知識の理解も深まり思考・判断・表現の力も身につきます。 ・授業を欠席せず、実際の操作をすることが大切です。全員が確実にソフトウェアの利用ができるよう配慮し、検定の取得についても取り組みます。 ・個人所有の PC を活用します。授業には必ず持参してください。
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・森林科学	単位数	2	担当者	伊藤・小澤
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1, 教科書・副教材

森林科学（実教出版）

2, 科目の目標

森林の育成、保全と利用に必要な知識と技術を習得させ、森林生態系と林木の生育特性を理解させるとともに、森林を総合的に利用する能力と態度を育てる。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	森林の環境 ・気象	森林を取り巻く環境を理解する 森林を形成する気象条件を学ぶ	35	育苗 樹木学 森林保育 1
	5月	・土地因子	森林土壌を中心に土地因子について学ぶ		
	6月	・生物因子	森林を形成する様々な生物の生活様式を学ぶ。		
	7月	森林の保育	保育作業全般の体験 下刈り		
	8月	樹木学	演習林の樹木を学ぶ		
	9月	森林の保育	保育作業全般の計画・体験		
後期	10月	森林管理技術	ツルきり 除伐	35	森林保育 2 世界の森林の概況と維持技術
	11月		間伐の知識と実際 間伐計画		
	12月	森林管理技術	間伐の実施		
	1月	森林の利用と森林更新の方法	枝打ちの知識と実際 森林の更新方法の基礎知識を学ぶ		
	2月	世界の森林と環境問題	世界の森林破壊状況を知り、その回復へ向けた取り組みを考える		
	3月	まとめ			

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	森林保育を学ぶ意欲を持ち、森林環境保全に取り組んでいるか。育苗・保育・更新に関する知識を理解。	ペーパーテスト（知識の習得、保全技術が正しくできるか）
思考・判断・表現	森林環境保全に価値観を持ち、考えることができているか。森林保全の方法の選択ができているか。	ペーパーテスト（習得した知識、技術と方法の正しい選択ができるか）
主体的に学習に取り組む態度	学校演習林の環境保全に取り組む意欲と判断力・行動力。	演習林実習における判断力・行動力と内容観察。生徒による自己評価や相互評価、実習記録の記述内容。

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

・森林のさまざまな事象に関心を持ってその仕組みを理解するように心がける。 ・覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・森林経営	単位数	3	担当者	竹内 ・ 植原
---	----	-------	---------	-----	---	-----	---------

1. 教科書・副教材

森林経営（実教出版）

2. 科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、森林経営に必要な知識・技術を学ぶことで地球環境の自然基盤である森林を、科学的かつ実践的に調査・研究し「持続可能な社会の実現」に大きく貢献できる素養を身に付ける。 (1) 森林経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 森林経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 森林経営について持続的な経営発展へ向けて自ら学び、農業の振興や社会貢献について主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	世界と日本の森林・林業	- 世界の森林と林業 - 日本の森林と林業	5 3	- 世界の森林帯 - 世界の森林資源と林業 - 諸外国の森林・林業 - 日本の森林帯 - 日本の森林資源と林業 - 木材の流通
	5月	森林経営の目標と組織	- 森林経営とは何か - 森林経営の組織 - 森林経営の計画		- 農業と森林 - 地球環境の保全と保護 - 持続可能な開発目標（SDGs） - 森林の経営と SDGs の関わり - 森林生態系の維持
	6月	「森林経営」とプロジェクト学習 「森林の測定と評価」 「森林の調査と実践」	持続可能な社会の実現に向けた森林経営の役割		
	7月	「森林の測定と評価」 「森林の調査と実践」	プロジェクト学習の実践		
	8月	「森林の測定と評価」 「森林の調査と実践」	プロジェクト学習の実践		
	9月	「森林の測定と評価」 「森林の調査と実践」	- プロジェクト学習の実践 - 森林経営とプロジェクト学習の意義		
後期	10月	「森林の測定と評価」 「森林の調査と実践」	プロジェクト学習の実践	5 2	プロジェクト学習 考察・改善（Action） 課題設定・計画の立案（Plan） 実施（Do） まとめ・評価（Check）
	11月	プロジェクト学習のまとめ 「森林の評価」	- 課題と仮設の設定 - 計画の立案・実施 - まとめた内容の評価		長野県学校農業クラブ連盟 レポート・面接
	12月	プロジェクト学習発表 FFJ 検定上級	FFJ 検定上級試験受験		
	1月	森林・林業の制度と政策 ・樹木の測定・林分の測定・成長量分析	- 我が国の森林政策 - 制度と政策の体系		
	2月	山地と農山村の保全	- 山地の保全 - 日本の農山村		危険物取扱者試験 乙種
	3月	森林経営の実践	情報技術活用の実践		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	- 森林生態の事物・事象に関心を持ち、森林経営の態度を身につけたか。 - 森林の事物・事象に関する基本的な概念や理論・成立ちを理解し、知識を身につけているか。	定期考查 提出課題 プロジェクト学習レポート内容 授業への取り組み
思考・判断・表現	経営的な事物・事象を実証的・論理的にとらえ、森林を総合的に考察し、環境に基づき科学的に判断することができるか。	
観察・実験の技能	森林の事物・現象に関する実験の技能を習得するとともに、それらを経営的に身につけ、結果・考察を的確に表現することができるか。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 森林のさまざまな事象に関心を持ってその仕組みを理解するように心がける。 - 最低限覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。（生物基礎・生物の多様性と生態系） - 科目総合実習でもプロジェクト学習レポート作成に向けてのデータ整理をおこなう。
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・測量	単位数	2	担当者	横山
---	----	-------	-------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

測量（実教出版）

2. 科目の目標

基準点測量の基礎と地形測量を中心にした細部測量、地図測量について学ぶ。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4 月	測量を学ぶにあたって	測量の概要	3 5	測量の意義
	5 月	距離測量	距離の測定 平坦地から傾斜地 距離の補正		基準点測量 トラバース測量
	6 月	角測量	測角器械の構造、使用方法		
	7 月	トラバース測量・実習	多角測量の実習を行う トラバース計算と製図		
	8 月				
	9 月				
後期	10 月	トラバース測量・実習	データの整理 計算表の作成 基準点図の作成	3 5	トラバース測量
	11 月				
	12 月	水準測量	直接水準測量 レベルの取り扱い 野帳の記載方法		水準測量
	1 月				
	2 月	写真測量	写真測量の方法		写真測量 リモートセンシング
	3 月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	測量機器の使用方法が理解できたか データの処理ができたか	定期考査、レポート
思考・判断・表現	得られたデータを適切に処理し、まとめることができたか	レポート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	測量実習に積極的に参加できたか	レポート、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

測量に関する、基礎的な知識と技術の習得を目指す。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・地域資源活用	単位数	3	担当者	押鐘
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

地域資源活用 実教出版

2、科目の目標

農業・農村の機能の発見と活用方法を探る活動をととして地域の担い手としての意識を身に付ける。 企画立案能力を身に付ける。 地域資源への理解を深め、持続的な地域環境保に向け主体的に行動できる能力を身に付ける。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	地域資源活用の特徴と種類 地域農産物の発見と活用（信州の特産野菜）	地域資源活用の考え方を学ぶ 木曽地域の特産野菜を知ること、また栽培方法の実際を学び、栽培準備を行う。	53	栽培方法を小テストする。
	5月	畑の準備を栽培の実際	プロジェクト計画と栽培の実際を、実習を通じて学ぶ。		
	6月		収穫と加工方法の実際を学ぶ		前期の活動範囲をレポートで評価する。
	7月	野菜の収穫と加工方法			
	8月	野菜の収穫と加工方法研究	プロジェクトの中間まとめをおこない知識と経験の定着を図る。		
	9月	中間まとめ畑見学会			
後期	10月	レポート作成とまとめ	地域農産物の発見と活用について農業クラブの面接審査を通じて知識経験の定着と課題の発見をさせる。	52	
	11月	農業クラブ学習と面接活動の実際	地域の伝統文化、食や伝統工芸について学習し技術を習得する。		
	12月		農林業振興や観光業の事例学習。		1年間の学習内容の復習と評価。
	1月	伝統野菜プロジェクトのまとめ 地域の産業振興にむけた取り組み			
	2月	専門科展への取り組み	ワークショップを用いた学び。 専門科展へ展示・発表・販売実習を行い1年間の学習のまとめを行う。		
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地域資源の活用方法について、正しい知識や技術を身に着ける。	知識試験
思考・判断・表現	各学習や実習内容について深く理解し、適切な行動がとれる。レポートやプレゼンテーション作成にあたり、正確な記録のもと明瞭にまとめることができる。	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	授業テーマに関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる	実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

常に地域と環境・生活文化を意識した授業とする。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	農業・農業簿記	単位数	2	担当者	押鐘
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

高校簿記 新訂版

2、科目の目標

・簿記の基礎を学び、企業経営の仕組みを知る。 ・簿記4級取得を目指す。
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	簿記会計の概要 農業簿記、商業簿記、工業簿記の 相違	簿記の基礎を学習 それぞれの簿記の特色を学習	35	仕訳 仕訳と貸借対照表 損益計算書
	5月	仕訳	資産・負債・資本 勘定科目の学習		
	6月	貸借対照表の作成	貸借対照表について学習		
	7月 8月	仕訳	収益・費用 勘定科目の学習		
	9月	損益計算書の作成	損益計算書についての学習		
後期	10月	帳簿整理	決算に向けて（転記・総勘定元帳）の学習	35	決算 取引の記帳 分岐法 掛け 手形 総合4級試験
	11月	決算	試算表・精算表の作成		
	12月	取引の記帳	現金・預金に関する学習 商品売買に関する基礎の学習		
	1月	分記法	売り掛け・買い掛けに関する学習		
	2月	掛け取引に関する記帳	約束手形・為替手形についての学習		
	3月	手形に関する記帳	資格取得と一年間のまとめ		
		まとめ			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	正確に仕訳と諸帳簿の記入ができる	知識試験
思考・判断・表現	帳簿の記入から経営状態が把握できる	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	簿記知識や資格取得に関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる	実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

全経簿記基礎簿記会計の合格を目指す。
